

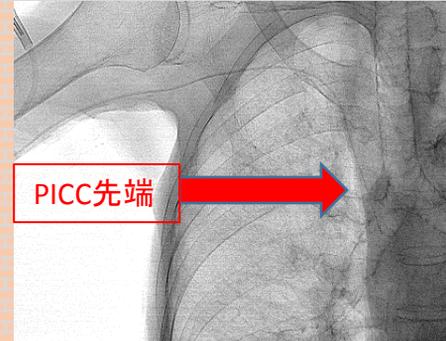
# 血管造影検査

血管造影検査とは、腕や太ももの付け根などの血管から、細い管(カテーテル)を入れ目的部位まで進め、造影剤という薬を注入しX線撮影をします。血管の流れや走行、狭い部分(狭窄)や詰まっている部分(塞栓)などの血管性病変の診断・治療、腫瘍性病変の診断(性状や広がり)や、出血血管や腫瘍を栄養する血管の塞栓などの治療を行います。

当院には2台の血管造影装置があり、現在では主に、末梢挿入型中心静脈カテーテル(PICC)の留置や心臓カテーテル検査・治療などを行っています。造影剤を用いない透視検査も可能です。

## ○末梢挿入型中心静脈カテーテル(PICC)

エコーで確認しながら、上腕にある静脈を穿刺して長いカテーテルを挿入し、腋窩静脈、鎖骨下静脈を通して上大静脈にカテーテルの先端を持っていき留置します。挿入時に、気胸や血胸などの合併症が起こらないことが最大の利点で、定期的な入れ替えも必要なく、点滴や薬剤の注射の度に針を注射されることがなくなります。



## ○心臓カテーテル検査

カテーテルを心臓に血液を供給している冠動脈の入り口まで通し、冠動脈内に造影剤を流しX線撮影をします。血液の流れをリアルタイムに見ることができ、冠動脈の狭い部分(狭窄)や詰まり(塞栓)がどの場所にあるのか、さらにどれくらい狭くなっているのかを把握することができ、狭心症や心筋梗塞を診断します。

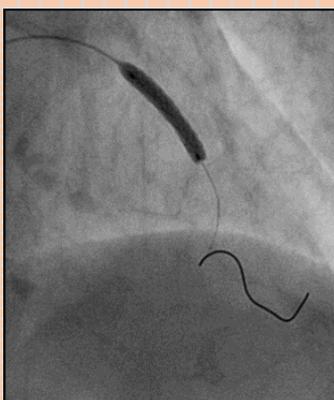
《心臓カテーテル検査・治療の流れ》

1. 手首、肘、鼠径部のいずれかの穿刺部位に麻酔をします。
2. カテーテルを心臓栄養血管の冠動脈の入り口まで通します。
3. カテーテル先端から造影剤を流し、冠動脈の狭窄・塞栓を確認します。
4. 血管の狭窄部位まで、PTCAバルーンという風船を進めて膨らませ、血管の内側を広げていきます。(冠動脈治療)
5. バルーンだけでは広がりきれないところに、ステントという、ステンレスなどの金属でできた小さい網目模様の筒を挿入し、狭窄部位で拡張することで病変部を治療します。

①治療前



②ステント留置



③治療後

